

10-360

40
1
117

進呈

(非賣品)

壬辰組講究錄

10-360

40
1
117

進呈

(非賣品)

壬辰組講究錄

壬辰組講究錄目次

○神祇官復興スヘキノ理由  
○辨疑

- 一 神社ト教會トノ區別
- 一 神社ト氏子トノ關係
- 一 祭政一致ト教政一途トノ區別

○問答

- 一 神祇ノ事ハ内務省ノ社寺局ニ統轄スルコトハ國體上差支之レアルヤノ問ニ答フ
- 一 八神殿ヲ賢所ト御一所ニ御鎮祭アルコトハ典故ニナキ事ナルヤノ問ニ答フ
- 一 神祇官ノ復興ハ立憲政體ノ今日ニ於テ何ノ必要アリヤノ問ニ答フ

壬辰組講究錄

○神祇官復興スヘキノ理由

凡國アレハ體アリ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ因リテ具ハルモノナ

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア

リ、其ノ體ヤ、各其ノ國ニ有スル特性ニ棄テ存立シ得ル國ハ、未ダ之レア



191721/...



夫レ我カ朝 歴世、神祇官ヲ置キ、報本反始ノ實ヲ舉ゲ、忠孝節義ノ本ヲ明ニシ、以テ政務ノ樞機ト爲ス、是レ 皇天ニ祖ノ 詔勅ニ出テ、即チ國家闕ク可ラサルノ大典、倫理上忽ニス可ラサルノ大道ニシテ、國家ノ長計之レニ依リテ立テ、民心ノ統一之レニ依リテ成ル。事歴史ニ徵スルモ、事蹟ニ證スルモ掩フ可ラザルナリ。是レ舊貫ニ依リテ、神祇官復興セサル可ラサル理由ノ一ナリ。維新ノ始メニ當リ、武弁專政ノ間、久シク廢絶セシ典故ヲ顯彰シ、神祇官ヲ置キ、以テ大ニ國是ヲ定メ、而シテ未タ幾年ヲ經スシテ之レヲ廢シ、神事ハ、總テ 天皇陛下御一身ニ委シ奉リ、國務大臣ハ肯テ關セズ、加之國家ノ宗祀ニ係ル、天祖ノ大廟ト、宗教崇拜ノ蕃神寺堂ト之レヲ一括シ、以テ内務ノ一小局ニ管理總轄ス、而シテ國家ノ宗祀ヲシテ、信否ノ間ニ放任シ、信仰自由ノ宗教ト同視セシムルニ至リシハ、抑、維新ノ始メ天地神明ニ誓ハセ給ヒ、國是ヲ定メ給ヒシ時ノ 聖旨ニ背違シ、知ラズ識ラス民心ヲシテ、岐ニ迷ヒ霧中ニ彷徨

徨セシムルニ至レリ。此ノ迷夢ヲ喚起覺知セシムルハ、一時姑息ノ小改革ノ成シ得ヘキ事ニアラス。必英斷以テ神祇官ヲ復興シ、國體ノ基ヲ明ニシ、皇室ノ尊嚴ヲ示スノ外、又他アラザルベシ。是レ神祇官ノ復興ヲ要スル理由ノ三ナリ。

賢所ノ奉齋ハ、天祖ノ 天孫ニ大訓アリシニ因リ、神祇官ノ祭事ハ、皇祖ノ 天孫補相二臣ニ大詔アリシニ因リテナリ。而シテ今日ノ内閣大臣ハ、天孫補相二臣ノ職ヲ襲ク者ナリ。然ルヲ今日補相ノ職ニ在リテ、神祇官ヲ廢シ、神事ニ關セザル者トナス。嗟呼補相ノ職ヲ盡ス者ト謂フヲ得ヘキカ。皇天ニ祖ノ遺勅ヲ遵奉スル者ト謂フヲ得ヘキカ。抑、金甌ノ國體ヲ保全スル者ト謂フヲ得ヘキカ。之レヲ建國ノ體ニ徵スルニ、悉ク然ラズトナス。是レ神祇官ヲ復興セサル可ラサル理由ノ四ナリ。

近況海外ノ學理學說、頻リニ行ハレテヨリ、或ハ漢籍ニ僻シ、或ハ西典ニ偏シ、

學說研究ニ托シテ、國家百世ノ成典ヲ打破シ、歷世ノ太元タル 天祖ノ盛徳ヲ毀損シ、國祖ヲシテ、海表ノ來賓トナシ、皇室ト臣民トノ密着ヲ離間スルカ如キ者、往々ニシテ之レアリ。夫レ今日ノ學理學說ハ、社會ノ原動力ナリ。若夫レ斯ノ如キノ學理學說ニ放任シテ、民心ヲ左右セシメ、社會ヲ支配セシメテ、二千年來變セサル所ノ民心ヲ破壞シ、千古維持シ來ル所ノ特性ヲ變更シ去ラハ、百万ノ兵、千百ノ軍艦モ、國防ノ用ヲ爲スヤ否ヤ、甚タ懼ル、所トナス。是レ國家ノ基礎固カラサルヨリ致ス所ナリ。其ノ國家不變ノ基礎ヲ固クシ、國家ノ長計大策ヲ立ツルハ、其レ神祇官ニアリ。是レ神祇官ヲ復興セサル可カラサル理由ノ五ナリ。

### ○辨疑

#### 一 神社ト教會トノ區別

神社ト寺院教會トハ、成立上其ノ區別ノ判然タルモノナリ。之ヲ混スレハ、

我が國家ノ由來スル所ヲ忘却シ、我が國體ノ基礎ヲ失フニ至リ、遂ニ國家永世ノ大計ヲ誤ル恐レナキヲ保ス可カラス。此レ豈ニ小事ナランヤ。故ニ今之レヲ辨スルコト左ノ如シ。

本邦ノ神社ハ、即皇室ノ御祖宗、所謂皇祖皇宗ヲ始メ奉リ、吾人ノ祖宗、即氏神ヲ祭ルモノニシテ。吾人本邦人ニ在リテハ、所謂其ノ子孫タリ、其ノ苗裔タルニ外ナラザレハ、固ヨリ之ヲ崇重シ、之ヲ尊敬スヘキノ責アルモノナリ。其ノ本原ヲ推スニ、人民有リテ而後我が神社ニ祭ル祖宗有ルニアラス。我が神社ニ祭ル所ノ祖宗有リテ、而後人民有リト云ハザル可ラス。如何トナレバ本邦ノ神社ハ、其ノ本原ニ遡ル時ハ、皆其ノ祖宗ヲ祭ルニ非ザルモノナケレバナリ。故ニ神社ト氏子トノ關係ハ、專ラ土地ノ區畫ニ因テ、之レガ境界ヲナセリ。此レ其ノ責ヲ免カル可ラサル理アル所以トス。其ノ神社ト氏子トノ關係ノ如キハ、猶下ニ至リテ之ヲ細説スベシ。

彼ノ寺院教會ノ如キム、即然ラス。如何トナレバ、人民有テ而後、其ノ信仰ニ因テ成立セシモノニテ。寺院教會有リテ、而後人民有リシモノニアラザレバナリ。故ニ其ノ壇家ト云ヒ、信徒ト稱スルモノモ、土地ノ區畫ニ因テ、之ガ境界ヲ定ムルモノニアラスシテ、人心ノ向背ニ因テ之ヲ定ムルモノナリ。是レ所謂信仰自由ヨリ成立スル所以トス。

此レニ由テ之ヲ觀レハ、凡テ本邦人ハ、神社ニ祭ル所ノ祖宗ニ因テ存在スルモノニシテ、吾人本邦人ノ祭ルニ因テ、祖宗ノ出來タルモノニアラサルヤ明ケシ。換言スレハ、吾人本邦人ハ、我ガ神社ニ祭ル所ノ祖宗ヨリ生レテ、我ガ國家ト共ニ存在スルモノナリ。彼ノ寺院教會ハ、吾人本邦人ノ信仰ニ因テ之ヲ造リ、以テ今日ニ存在スルモノナリ。故ニ寺院教會ノ如キハ、衆庶ノ信仰ニ放任シテ之ヲ顧ミサルモ、其ノ理ニ於テ敢テ不可ナキモノナリトス。我ガ神社ノ如キハ然ラス、其ノ本我ガ祖宗ヲ祭レルモノナルヲ以テ、之

ヲ衆庶ノ信仰ニ放任ス可キ理ナキノミナラズ、我ガ神社ハ、即此ノ宇内無比ノ國體ヲナシ來レル基礎ニシテ、所謂其ノ根抵タルモノナレハ、本邦ニシテ若シ此ノ神社ヲシテ、衰廢ニ至ラシムルコトアルトキハ、其ノト共ニ此ノ宇内無比ノ國體ヲ失フニ至ルヤ必セリ。思ハスシハアル可ラス。

#### 一 神社ト氏子トノ關係

神社ト氏子トノ關係タル、彼ノ寺院ト壇家トノ關係、及ヒ教會ト信徒トノ關係ニ於ケルト、大ニ異ナルモノアリ。如何トナレハ寺院ト壇家、及ヒ教會ト信徒トノ關係ノ如キハ、之ヲ喩フルニ師家ト門人トノ如シ。其ノ門人タルモノハ、孰レヲ師家トスルモ、門人其ノ人ノ隨意ニシテ、始メヨリ是レト定マレルモノ、有ルヘキ謂ハレナシ。依テ其ノ藝道ニ於ケル、其ノ流義ニ於ケル、何レヲ學フトシテモ、我カ道ニ非スト云フコト無ク、何レニ從フトシテモ、我カ師ニ非スト云フコトナシ。彼ノ信仰自由ニ任スル所ノ寺院ト

壇家、及ヒ教會ト信徒トノ關係ハ、之レト均シキモノナリ。  
 神社ト氏子トノ關係ハ、即然ラス。其ノ理恰モ父子兄弟ノ相離ル可テザル  
 ガ如シ。凡父子兄弟ニ於ケル血脉ノ親ミハ、如何ニ之ヲ斷ントスルモ、斷ツ  
 可ラサルモノアリ。故ニ若シ互ニ相疎ンシ、互ニ言語ヲ相通セサルニ至ル  
 モ、其ノ血脉ノ父子兄弟タルヲ斷ツノ道ナシ。本邦ノ神社ト氏子トノ關係  
 ハ之レト均シク、氏子ニシテ其ノ氏神ヲ棄テ、他ノ寺院教會ニ歸スルコト  
 アルモ、彼ノ不孝子ノ我ガ父母ヲ棄テ、他人師父ニ從フモノト一般ニテ、如  
 何ニ彼レニ親ミ、如何ニ之ヲ疎ンスルモ、其ノ親ムモノヲシテ真正ナル血  
 脉ノ父母トナシ、其ノ疎ンスルト雖モ、眞ノ父母ヲシテ實ノ他人トナスコト  
 能ハス、縱令其親ムモノヲシテ義父タラシムルコト得ルモ、血脉ノ父母ハ、  
 依然トシテ眞實ノ父母タルヲ改ムルコト能ハサルガ如シ。斯ノ如ク我ガ神  
 社ト氏子トノ關係ハ、彼ノ寺院ト壇家、及ヒ教會ト信徒トノ關係トハ、大ニ

異ナルモノナリ。  
 夫レ本邦諸神社ノ、吾人本邦人ニ於ケルハ、元來祖宗ト苗裔トノ緣由、父兄  
 ト子弟トノ關係ヲ有スルモノナリ。之ヲ細説スレバ、本邦ノ種族タル、神別、  
 皇別、蕃別ノ差別アリト雖モ、其ノ本源ニ遡ル時ハ、其ノ實事ヲ同族ヲ以テ  
 成立シタル、所謂一源分流ノ同族國ニシテ、皇室ハ即宗家ナリ。臣民ハ即其  
 ノ支流餘裔ナリ。故ニ闔國恰モ一家ノ如シ、猶之ヲ比喩スルニ樹木ヲ以テ  
 センニ、皇室ハ本幹ナリ。臣民ハ其ノ枝葉ナリ。而シテ皇祖皇宗ハ、之レガ  
 根本ニシテ、神祇ハ之ガ枝根ナリ。故ニ本邦人ニシテ、皇祖皇宗、及ヒ神祇ヲ  
 崇敬スルハ、所謂其ノ根本ニ培フモノニシテ、要スルニ其ノ本幹ヲ長大ニ  
 シ、其ノ枝葉ヲ繁茂セシムルニ外ナラス。若シ之ニ反シテ、樹木其ノ根本ニ  
 培ハス、以テ疲瘦セシムルハ、本幹ノ長大、枝葉ノ繁榮、何ニ依テカ之レヲ望マ  
 ン、思ハサル可ラス。

然レモ其ノ神社ニモ、亦祖神裔神ノ次第アリ。一概ヲ以テ論ス可ラス。事ハ延喜ノ神名帳、及ヒ類聚二代格等ニ載セテ詳ナリ。今其ノ要領ヲ畧言センニ、神宮ノ如キハ、天下誰レガ之ヲ尊崇セサルモノ有ラン。是レ特リ皇室ノ御大祖ナルニ止マラスシテ、吾人本邦種族一般ノ御本祖ニ係レハナリ。猶熱田神宮、出雲大社等ノ如キ、其ノ他本邦人舉テ崇拜スヘキ神社アルハ、之レニ准ヘテ知ルベシ。又諸國各地ニ在ス大小ノ神社ハ、多クハ其ノ國其ノ地ノ祖神、及其ノ國其ノ地ヲ開始セル、有功ノ神ヲ祭レルモノニシテ、之レヲ其ノ國其ノ地ノ祖神氏神トス、而シテ其ノ國其ノ地ニ住ム所ノ流裔氏子タルモノ、舉テ之ヲ崇重スルハ、即倫理忠孝ノ本、報本反始ノ道ナリ。何ゾ信スレハ憑リ、信セサレバ離ル、ガ如キ、宗教祠宇ト同一視スベケンヤ。抑本邦ニ於テ、祖神ノ祭事ヲ重セシメラレタル其ノ徵ヲ舉ケンニ、續日本紀卷六元明天皇和銅七年二月丁酉九日ノ條ニ曰、以從五位下大倭忌寸五百足爲

氏上、令主神祭下、此條ノ同紀考證ニ云崇神紀云、七年十一月、以長尾市爲祭倭大國魂神之主、案大國魂神、所謂大倭大神、神名式、大和國山邊郡大和坐大國魂神社、即此長尾市大和忌寸等遠祖也、トアルヲ始メ、其ノ他在官ノ人、其ノ氏祖神ノ祭日ニハ、暇ヲ賜ヒ、歸國セシメラレシ例モ、史乘ニ見エタリ。之レヲ以テ觀ルトキハ、上世ヨリシテ、氏祖神ノ祭祀、其ノ忽ナラザルヲ明ナリ。然リ而シテ猶敷演シテ言ハ、其ノ國々ニ祖神タル神社ノ中ニハ、皇祖ノ神宮ニ對シ奉リテハ、其ノ裔神ナルアリ。又其ノ諸國ニ於テ、所々ノ鄉村ニ祖神タル神社モ、其ノ一國ノ祖神タル神社ニ對シテハ、其ノ裔神ト稱セザルヲ得サルアリ。元來本邦ノ神社ハ、上世ヨリ、其ノ國々ニアリテ、後ニ國造クニツクリ縣主アサヒノミ、村首ムラノミ、稻置イナヅメ、直ナホトニ成リシ人々ノ一族、各自ニ其ノ國其ノ鄉村ヲ主管シ、多クハ同氏族ヲ以テ其ノ地ヲ開始シ、其ノ祖神氏神ヲ祭レルモノナレ



ハ、其ノ地ニ就テ之ヲ氏神ト稱シ、又其ノ氏神ニ對シテ、氏子氏人ト稱スルモ實ニ古義ヲ存スルモノト云フベシ。

以上ノ理由ニ因テ、建國以來、幾千歳ノ久シキヲ經過シ來レル今日トナリテハ、諸氏性ノ人互ニ各地ニ移住轉居シテ、混住雜居ト成タレバ、必スシモ其ノ地ノ氏神ト稱スル神社ハ、其ノ鄉村一般ノ眞實ノ氏神祖神ニアラサルモアルヘケレト、互ニ本邦人タル以上ハ、我ガ本居ナリシ眞實ノ祖神氏神ハ、我跡ニ來レル者、即其ノ地ニ就テ之レヲ氏神トシテ、其ノ祭祀ヲナスコトナレバ、我モ亦其ノ現住地ノ氏神ヲ眞實ノ氏神トシテ、之レガ祭祀ヲサスハ、當然ノ理ナリ。是レ本邦人ハ、神社ト氏子トノ關係ニ於テ、相離ル可ラサル責アル所以トス。

凡本邦人ノ神社ト氏子トノ關係ニ於テハ、一郷一村ノ氏神ノ氏子タリモノモ、猶其ノ一國一地方ノ祖神ニ對シテ、又第二ノ氏子タル理ヲ具有シ、然

然ミガラズ我ガ 皇室ノ御太祖所謂天下ノ御本祖、即國家ノ御總祖タル皇祖ノ神宮ニ對シ奉リテハ、又第二ノ氏子タルノ理ヲ具有セリ。故ニ本邦ニ於テハ、國初以來、凡本邦人タル者ニシテ、皇祖ノ神宮ヲ尊ムセサルモメナク、又其ノ國ノ祖神、鄉村ノ氏神ヲ敬拜セサルモノナキハ、恰モ此ノ現在ニ於テ、皇室ヲ戴キ、諸國ニ國主ヲ仰キ、鄉村ニ郷長里正ニ從フニ異ナルコトナシ。是レ本邦建國以來ノ組織ニシテ、宇内無比ノ國體ノ存スル所、實ニ爰ニアリ。中古儒佛ノ二教渡來シ、天下殆ント此ニ化セサルモ、無キニ至ラントセシモ、猶此ノ國家ノ組織ニ於テハ、依然トシテ之ヲ改メス。彼ノ鎌倉幕府以來、武家專横、朝廷式微ノ世ヲ經ルコト、凡ソ七百數十年ノ久キニ亘レルモ、遂ニ此ノ王政ノ古ニ復シ、明治ノ隆運ニ遭遇スルコトヲ得タル所以ナリ。思ハスンバアルヘカラス。

一 祭政一致ト政教一途トノ區別

凡宇内ノ各國、其ノ開國ノ初ニ遡ル時ハ、孰レノ國モ大抵祭政一致ノ体ヲ具ヘサルモノハ無カリシナラン。如何トナレバ凡性情アルモノ、誰カ報本反始ノ道ヲ念ハサルモノヤアルヘキ。各國ノ上古史ヲ考フルニ、其ノ初ニ當リテハ、各國其ノ祖トスル所ヲ祖トシ、其ノ宗トスル所ヲ宗トシ、以テ報本反始ノ祭ヲ行ヘルコト、大概相似タルモノアルガ如クナレハナリ。然ルチ屢々革命ヲ經タル國ハ、遂ニ其ノ祭政一致ノ本体ヲ失ヒ、是ニ於テ始メテ祭事ト政事ト二途ニ別レ、祭事ハ都テ宗教ニ屬シ、而シテ後又政略上ヨリ其ノ政教ヲ併セテ、之チ一ノ執柄者ニ歸セシモノアリ。之チ政教一途ト云フ。是レ祭政一致ト、政教一途ト相異ナル所以ナリ。

仍之レテ詳言センニ、宇内ノ各國、其ノ祭政一致ノ本体ヲ失ヒテ、遂ニ政教二途ニ別レシ所以ノモノ、是レ他ナシ。其ノ國家混亂シテ、秩序ヲ失ヒシ結果ニ由ラサルハナシ。凡國家混亂シテ秩序ヲ失フ時ハ、奸雄逆賊其ノ隙ニ

乘シテ起リ、威力ヲ逞ウシ、前ノ王室ヲ倒シテ、終ニ自ラ代テ王トナル、是レ謂ハユル革命ナリ。其ノ革命アルヤ、必ス前ノ王室、及ヒ其ノ從臣等ヲ亡ホシテ、其ノ宗廟社稷ヲ破壊シ、百般ノ制度ヲ改新スルハ、實ニ勢ノ免カレサル所トス。

是ノ如ク屢々革命ヲ經ルヤ、甲族ヲ滅却シテ、乙族之ニ代リ、乙族ヲ驅逐シテ、丙族之ヲ掠メ、丙族ヲ侵略シテ、丁族之ヲ奪ヒ、一國ノ人民、其ノ種族ノ變轉セシコト、其レ幾回ナルチ知ラス。而シテ其ノ革命ニ遇フ毎ニ、宗廟社稷ヲ破壊スルチ以テ、其ノ祖先ト後裔トノ中間、全ク切斷セラレシモノナリ。所謂其ノ依ル所ヲ失ヘリト云フ者、是レナリ。是ニ於テカ其ノ宗廟社稷ニ代ヘテ、民族ノ安心立命ヲ求ムル所ヲ設ケサル可ラス。是レ宗教ノ起ラサルチ得サル所以ニシテ、彼ノ海外諸國ノ如キ、奸雄逆賊ノ輩、威力ヲ振テ自ラ國王トナリ、傍ニハ賢哲知士、亦德化ヲ施テ、自ラ教祖トナレリ。是ニ於テ始

メテ、政教二途ノ端緒ヲ開キタルモノナリ。之ヲ政教相分ル、ノ始メトス。夫レ國王ハ土地ノ區域ヲ定メテ、其ノ部内ニ政治ヲ布キ、以テ其ノ民族ノ有形ヲ治メ、教王ハ其ノ土地ノ區畫ニ拘ハラズ、人心ノ信仰ニ依テ、民族ノ無形ヲ治ム。是レ政教ノ大ニ相異ナル所トス。然レモ亦政教一途ヲナスモノアリ。其ノ國王、其ノ國人民ノ歸向スル宗教ヲ撰ビ、國王モ亦之ヲ信シ、以テ之ヲ其ノ國ノ國教トシ、國王ハ政治ノ王ニシテ、又自ラ其ノ教王ヲ兼テ、一王ニシテ政教ノ二權ヲ握リ、以テ其ノ民族ノ有形無形ヲ合セテ、之ヲ一途ニ治ム。彼ノ英國女王ノプロテスタント教王ヲ兼テ、又魯帝ハ希臘教王ヲ兼タルカ如キ、即是レナリ。之ヲ政教一途ト云フ。

然レモ希臘教ハ、其ノ本魯國ノ帝室ローマノツク家ニ關係アルモノニ非ス。希臘教ハ、固ヨリ希臘教ニシテ、魯國ノ帝室ハ、固ヨリ魯國ノ帝室ナリ。而シテ彼得帝以來、希臘教ヲ採ル以テ國教トナシ、自ラ其ノ教王ヲ兼ヌ。是レ其

ノ元互ニ關係ナキ魯國ノ帝室ト希臘教ト、相依リテ、政教一途ニ成レルモノナリ。英國ノ如キモ亦然リ。即プロテスタント教ハ、日耳曼人路傍ノ建ル所ニシテ、其ノ元英國ノ王室ハ、ツォーヴァー家トハ、更ニ關係アルモノニ非ス。而シテ以利々泊西女王以來、之ヲ取テ國教トナシ、自ラ教王ヲ兼テ、互ニ關係無リシ英國ノ王室ト、プロテスタント教ト相依リテ、政教一途ニ成リシモノナリ。彼ノ政教一途ト云フモノ、例、大約斯ノ如シ。又彼ノ政教一途ナルモノハ、元來互ニ關係ナキモノ、相依リテナレルモノニテ、或ハ英國ニ希臘教ヲ取リ、魯國ニプロテスタント教ヲ取ルモ、更ニ妨ケナシ。如何トナレハ政教ノ相依リテ一途ヲナスモ、其ノ元相離ル可カラサルノ關係ヲ有スルモノニ非ザレバナリ。

我が祭政一致ノ如キハ、則然ラス。前ニ述ヘタル如ク、固ト我祖ヲ祖トシ、我宗ヲ宗トシ、所謂自己ノ宗廟社稷ニ對シ、報本反始ノ禮ヲ行フモノニシテ、

即其ノ子孫後裔タル者ノ歴世ノ祖先ニ仕フルモノナレハ、其ノ國滅セス其ノ民亡ヒス、祖宗ノ鴻業廢レズ、祖先ノ繼統絶セザル限リハ、道理上ヨリ云フモ情誼上ヨリ論スルモ、其ノ祭政一致ノ体ヲ改ム可ラサルコト、其ノ理火ヲ視ルヨリモ明ナリ。

凡ソ宇内廣ク、萬國多キ中ニモ、今日トナリテ、其ノ子孫後裔ニシテ、親シク其ノ宗廟社稷ヲ祀リ、以テ真正ナル祭政一致ノ体ヲ現存スルモノハ、本邦ヲ除キテ何レノ國ニカアル。是レ實ニ宇内無比ノ國体ト我レ自ラモ誇稱シ、他ヨリモ贊美シ、且羨ミテ止マサル所以ナリ。若シ本邦ニシテ此事無ンバ、何ソ他國ニ異ナルコトアラン。他國ニ異ナル所ノモノ、即我ガ國体ノ特性ニシテ、實ニ我カ國家ノ命脉亦此ニ存ス。故ニ此ノ國家命脉ノ存亡ハ、特性ナル國體ヲ保護スルト否トニアリ。而シテ其ノ本原ヲ推究スルニ、皇統連綿タルガ故ニ、祭政一致ノ体ヲ傳ヘタルカ、將タ祭政一致ナルガ故ニ、皇

統連綿タルカ、其ノ間實ニ髮ヲ容ル、ノ餘地ナキ所ナラン。苟モ本邦人タルモノ、豈ニ之ヲ知ラサル可ケンヤ。是レ即我カ政教一致ト、彼ノ政教一途ト、大ニ異ナル所以ニシテ、祭政一致ハ、所謂父子相離ル可ラサルノ關係アリテ然ルモノナリ。

以上述ル如クニシテ、凡天下ノ邦國ニハ、祭政一致ノ國アリ、政教一途ノ國アリ、政教分離ノ國アリ。而シテ政教分離ト、政教一途トハ、皆屢、革命ヲ經タル國ニ行ハル、者ニシテ、實ニ止事ヲ得ザルニ出タルモノナリ。中ニ就テ祭政一致ハ、特リ革命ヲ知ラサル本邦ニノミ存スル所ナレハ、今日トナリテハ、宇内萬國ニ於テ其ノ比例ヲ見ルコト能ハザルナリ。其ノ比例ヲキハ、即我カ國家ノ、宇内無比ナル所以ニシテ、吾人本邦人タルモノ、最モ貴重シ、且ツ身ヲ以テ保護セサル可カサル所トス。然ルニ近時我ガ同胞ニシテ、彼ノ歐化主義ヲ取ルモノ、中ニハ、或ハ彼我其ノ立國ノ体ヲ異ニシ、其

ノ組織ヲ同クセザルニモ心付ス、無遠慮ニモ我が祭政一致ト。歐州ノ政教一途トナ混視シ、且政教分離ヲ以テ、無上ノ制ナリトシ、却テ我が祭政一致ノ制ヲ廢シ、其ノ宗廟社稷及ヒ吾人臣民ノ祖宗タル神祇ヲモ、彼ノ信仰自由ニ放任スル宗教部内ニ投セント欲スルモノ、將々無キニ非ズ。豈又奇怪ノコトニ非スヤ。

若シ此ノ奇怪論者ノ説ノ如ク、萬一ニモ祭政一致ノ制ヲ廢シ、皇祖祖宗ノ神宮、及ヒ吾人祖宗ノ神祇ヲシテ、衆庶ノ信不信ノ間ニ放任シ、宗教範圍ノ内ニ置カシメハ、其ノ結果ハ、那点ニ歸ス可キガ。實ニ其ノ間ニ變ヲ容レサル程ノ、密着ナル關係ヲ有スル。皇室ニ對シテ、其ノ影響ヲ及ホスコトナシトスルカ。我カ將來ニ向テ、實ニ言フ可ラサル禍害ノ原因トナランコト、知者ヲ待テ後識ルヘキニ非ス。然ルニ是レ等ノ道理アルヲモ研究セス、強テ革命國ノ制ヲ取り、以テ我ヲ彼ニ摸セントスルハ、所謂喬木ヲ辭シテ、幽

谷ニ下ルモノナリ。否我カ國家萬年ノ大計ヲ誤ルモノナリ。懼レサル可ケンヤ。慎マザル可ケンヤ。

○問答

一神祇ノ事ハ内務省内即現今ノ社寺局ニテ統轄スルコトハ國體上ニ於テ差支之レアル哉

答フ本邦ノ國體タル、建國ノ初ヨリ特ニ神祇ヲ崇敬シ給フコトハ、今更ニ申スマデモナキコトナリ。抑、上世ニ在テハ、神宮皇宮御同殿ニテ、神物官物ノ差別ナク、以テ崇重ヲ極メサセ給ヒ、後神事ト政事トノ區別ヲ立テラル、ニ至リテモ、猶神祇官ヲ太政官ノ上ニ置カレ、以テ立國ノ本體ヲ改メ給ハザリシコトハ、大寶令ヲ一見シテモ明カナリ。又本邦ニ於テハ、神祇ヲ以テ、宗教ノ佛菩薩ト同一視シ、神社ヲ以テ寺院ト混一シテ取扱フ可キモノニ非ザルコトハ、多言ヲ要セサルナリ。然レハ縱令今日ト

成リテモ、我カ國家ノ本体ヨリ之ヲ言ヘハ、神祇ヲ管轄スル官衙ハ、内閣ノ上ニ置カルベキハ、當然ノコトナルヘシ、但シ萬止ム事ヲ得スシテ、内閣ノ上ニ置クニ至ラズトモ、必ズ神祇ヲ主管スル一官衙無クシハアル可カラズ。而シテ此一官衙ハ、一省中ノ一局トナスヘキモノニ非ス。假令小官衙ト雖モ必スヤ、天皇直隸ノ官衙タルヘキモノナリ。如何トナレバ神祇ノ官衙ハ、神社ノ事務ヲ管理スルニ止ラスシテ、國家ノ祭祀ヲ掌リ禮典ヲ掌ル所ニシテ、上ハ、天皇ノ寶祚ヲ翼賛シ、下ハ臣民ノ秩序安寧ヲ保テ、以テ國家ノ神髓ヲ蒐メテ、國體ヲ永遠ニ保持スル本據タレバナリ。然ルチ今日ノ如ク内務ノ一局タル社寺局ヲシテ寺院ト共ニ統轄セシムルハ、我カ國家ノ本体ニ對シ、決シテ當ヲ得タルモノニ非ザレハ、國體上無論御差支ノ儀ト思考ス。

## 一八神殿ヲ

賢所ト御一所ニ御鎮祭アルコトハ、典故ニナキ事ナルヤ。

答フ賢所ト、八神殿下ハ、其ノ起原素ヨリ別ナリ、賢所ハ、皇孫降臨ノ時、皇祖ノ皇孫尊ニ、吾兒視此寶鏡、當猶視吾、可與同床共殿以爲齋鏡ト勅リ給ヒテ、寶鏡ヲ授ケ給ヒシヨリ以來、歷朝、皇祖皇上御同殿ニ坐マシテ、親ク奉仕シ給ヘリ。是レ即皇祖ノ授ケ給ヘル所ノ帝道ニシテ、歷朝ノ皇上、親ク行ハセ給フ所ナリ。之ヲ賢所ノ起原トス。又其ノ時高皇產靈神ハ、吾則起樹天津神籬及天津磐境、當爲吾孫奉齋矣。汝天兒屋命、太王命宜持天津神籬降於葦原中國、亦爲吾孫奉齋焉。ト勅リ給ヒテ、此ノ二神ヲ陪從テ降ラシメ給ヒシヨリ後、彼ノ左命ノ二神之ヲ齋キ奉リ、神武天皇ノ御世ニ至リテハ、此二神ノ孫天種子命、天富命、之ヲ齋キ奉リ、爾來歷世皆祭官ノ重職タル臣下ヲ以テ、之ヲ祭ラシメ給ヘリ。是レ神祇官ニ祭ル所ノ八神殿、及ヒ其ノ他ノ神祇ヲ祭ル原始トス。此ノ皇祖ノ

神勅ヤ、即臣下ナシテ 皇室ノ爲ニ神祇ヲ齋キ、以テ寶祚ノ無窮ヲ祈ラシムルノ道ヲ授ケ給ヘル者ナリ。斯ノ如クニシテ 賢所ハ、皇上ノ親シク皇祖ニ事ヘ奉リ給フ所、八神殿ハ、臣下ノ 皇室ノ爲ニ神祇ニ奉仕シ寶祚ノ無窮ヲ祈リ奉ル所ニシテ、其ノ由來スル所大ニ別ナリ。而シテ其ノ異ナル所以ノモノ、共ニ皇祖天神ノ大勅ニ出デ、我ガ國體ノ基礎、邦家ノ存立、實ニ爰ニ在リ。然ルニ今世ニ至リテ、八神殿ノ稱ヲ廢シ、天神地祇ト合セ祀リテ、神殿ト稱シ、遂ニ賢所ト御同所ニ移サレタリ。斯ノ如キコトハ、中古 朝廷式微ノ御時代ト雖モ、未ダ曾テ聞ザル所ナリ。嗚呼明治ノ隆運ニ遭遇シテ却テ斯ノ如シ、豈又体ヲ失フノ甚シキモノト謂ハザルヲ得ンヤ。是レ神祇官設立ノ建議、續々トシテ絶ヘサル所以ナリ。今我カ國家ノ本体ヲ失フヲモ、顧ミストセハ、復何ヲカ云ハン、苟モ本邦固有ノ体面ヲ維持セント欲セハ、社寺局ヲシテ神祇ノ事ヲ管轄セシムルハ、

國体上差支ナシトハ謂フ可ラサルナリ。

一神祇官ノ復興ハ立憲政體ノ今日ニ於テ何ノ爲ニ必要アリトスルヤ

答フ、此ノ問題ニ對シテハ、一ノ疑問ヲ起サ、ルヲ得ズ。其ハ此ノ建國ノ初ヨリ今日ニ至ルマテ、皇祖 皇宗ノ懿訓ニ依リ、 皇統連綿タル所ノ、宇内無比ナル我カ國體ハ、之ヲ將來ノ億万斯年ニ維持スヘキモノトスルカ、將タ破壊ニ至ルモ敢テ顧ズン可ナルモノトスルカノ疑問ニシテ、本問題ノ如キハ、特ニ此ノ二点ヲ決スルニアルノミ。若シ其レ國體ノ破壊ニ至ルモ顧ズシテ可ナルモノトセバ、復答フルノ必要ナシ。苟モ此ノ國體ヲ無窮ニ維持セント欲セハ、神祇官ノ復興ハ必要中ノ最モ必要ナルモノトス。但シ官衙ノ名稱ハ時ニ隨ヒテ變更スルコトアリト雖モ、必ヤ古代ノ神祇官ニ代ハル所ノ一官衙ナクンハアル可カラサルナリ。如何トナレハ前問ニモ既ニ答ヘタル如ク、賢所ハ、皇上ノ 皇祖ニ仕ヘ奉リ給

フ所、即 皇祖ノ遺シ給ヘル 帝道ノ根ザス所。八神殿ハ、臣下ノ 皇上ノ奉爲ニ神祇ニ奉仕スル所、即 皇祖ノ授ケ給ヘル臣道ノ基ク所ニシテ、全ク兩儀ナリ。然レハ之レヲ混一ニスルハ、建國ノ體ニ適ハサルヤ明ナリ。而シテ今日八神殿ヲ 賢所ト一ニ集メ、以テ 皇室ニ委シ奉リ、臣下ハ之レニ關セサルモノトナス。是レ臣道ノ第一儀ヲ闕キタル者ナリ。此ノ第一儀ヲ闕キテ、焉ソ體ヲ全クスルモノト謂フテ得ヘキカ。果シテ然リトセバ、即國體ノ幾許ヲ失ヘリト云ハサル可ラズ。既ニ國體ノ幾許ヲ失ヘリトセハ、亦其ノ大體ノ破壊ニ至ランモ保シ難カルヘシ。語ニ曰ク霜ヲ履テ堅氷至ル、ト恐レサル可ケンヤ。寸時モ早ク此ノ官ヲ復興シ、先其ノ絶タルヲ繼キ廢レタルヲ興シ、其ノ本体ヲ完全ニシ、以テ之レガ維持ヲ圖ラサル可ラズ。夫レ神祇官ヲ復興スルハ、今日ニ於テ最大ノ必要アルモノナリ。請フ願テ能ク之ヲ思惟セヨ。

明治廿五年十一月十五日印刷  
全 年 全 月十六日出版

編發 福島縣士族  
輯行 丹 治 經 雄  
者兼

京橋區南小田原町一丁目  
北三番地寄留

印刷者 大分縣士族  
池 永 靜 馬

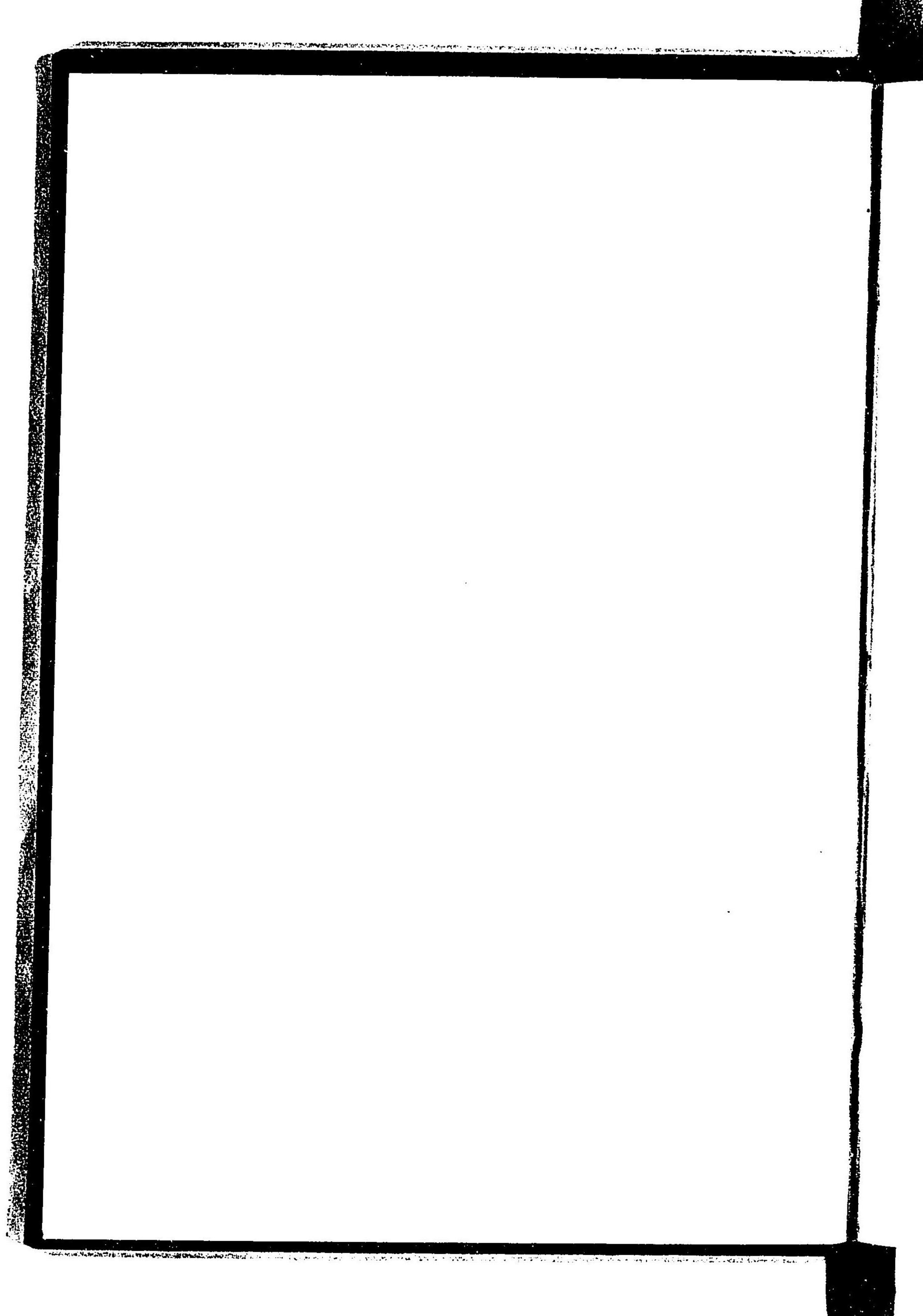
東京麹町區飯田町五丁目  
三十番地寄留

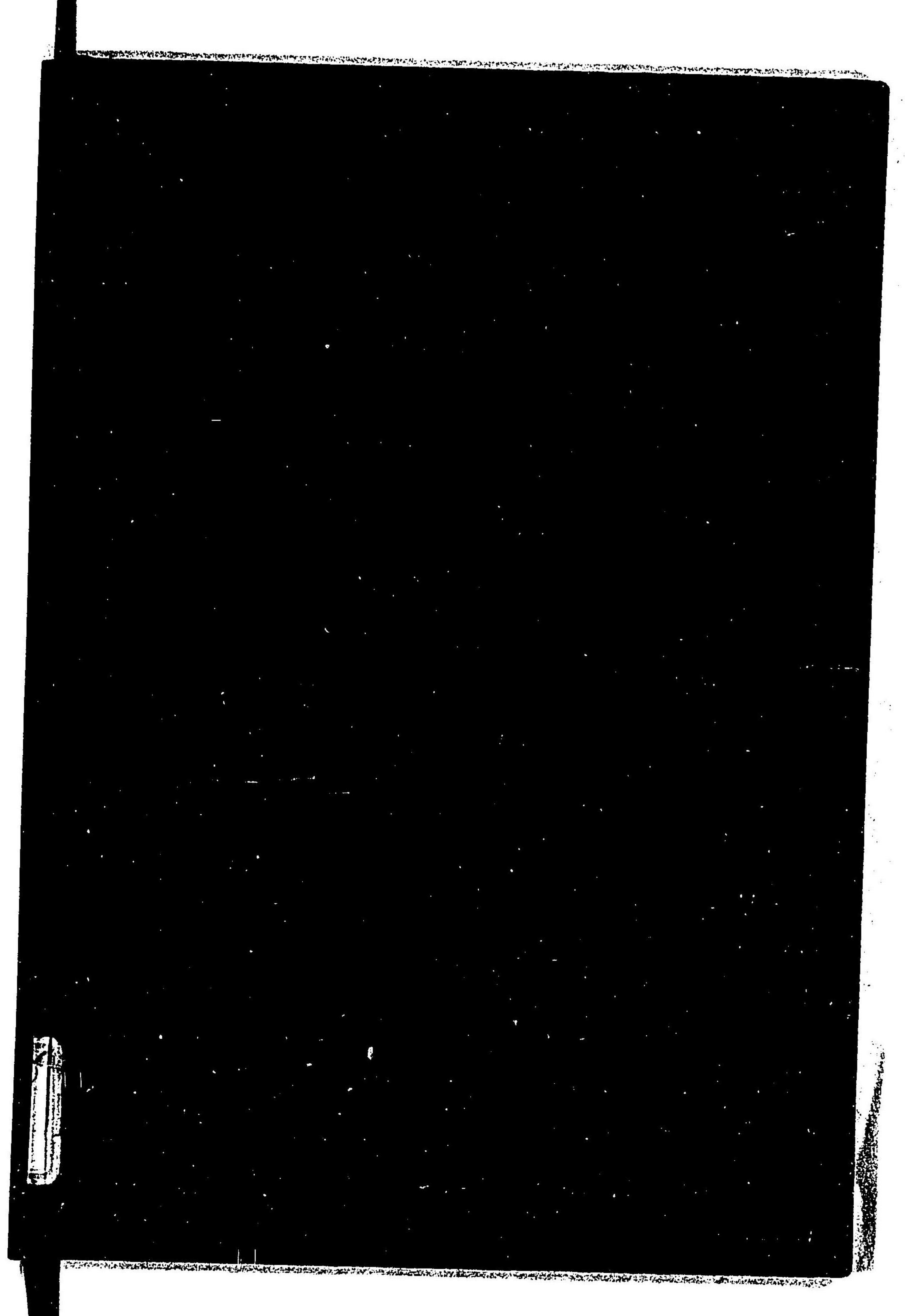
印刷所 同 勞 舍

東京市麹町區下六番町  
十七番地(電話三百六十九番)



10-360





40  
1  
117

014211-000-6

40-117

壬辰組講究録

丹治 経雄/編

M25

ABB-0532



